

1 研究主題

主体的に創造活動の喜びを味わえる実践と評価
～造形的な見方・考え方を働かせて～

2 はじめに

本研究会では、令和3年度より、造形的な見方・考え方を働かせる実践と評価方法の向上を目指して研究を進めている。本年度は、図画工作・美術科では、目標を達成させるためにどのような手立てを施せばよいのかを、多くの教員で考え、授業改善を目指していくことで、主体的に創造活動の喜びを味わえる児童の育成に繋がると考えた。また、小学校では、図画工作が専門ではない教師が、図画工作を指導する上での不安も一定数あることがわかっていることから、各単元の授業研究や評価実践をすることで、授業をするときに、少しでも自信をもって授業に臨めるようにしたいと考えた。

3 研究経過

(1) 図画工作科・美術科指導

- ア 教員の苦手意識調査 (4/25)
- イ 実践
 - 教材研究① 絵の具 (5/9)
 - 教材研究② 競技会 (7/11)
 - 教材研究③ 版画 (11/14)

(2) 評価実践報告の作成

- ア 評価実践① 絵の具 (6/13)
- イ 評価実践② 競技会 (9/12)
- ウ 評価実践③ 版画 (12/12)

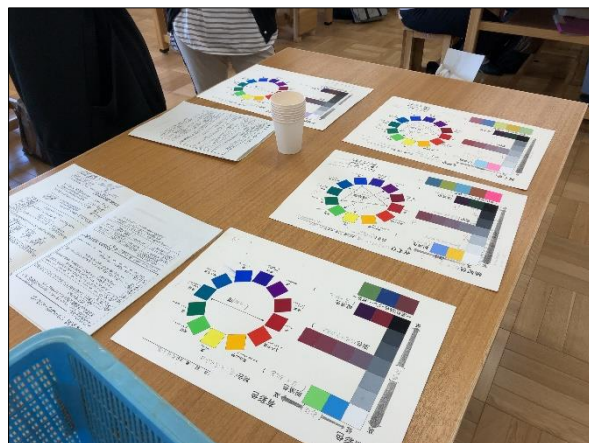
(3) 図工・美術競技会、教育展

- ア アンケート実施 (5/9)
- イ 教材研究 (7/11)
- ウ 評価実践 (9/12)
- ウ 競技会・教育展の反省 (11/14)

(4) 次年度の研究発表の検討

- ア 評価実践の報告 (10/10)
- イ 授業公開・発表内容検討会
小牧南小学校 松浦衣里 (1/16予定)

写真① 教材研究の様子



4 研究の概要

- (1) 指導に対する教員の苦手意識調査を把握する目的で記述式アンケートを実施し、苦手項目を抽出した。

写真②③ 教材研究の様子

- (2) 苦手項目に対する改善策として、経験の多い教師の助言や他校の事例などから改善策を練った。また、中学校美術の内容を知ること、小中連携を図った。（写真①）
- (3) 教材研究として、学年ごとに同じ単元の作品を制作しながら、教材研究を行った。（写真②③）自分の授業、児童生徒や学校に合うように変え、それぞれの目的に合わせて実施した。効率よく作る手順、押さえておくべき点などは、中学校美術科の教員が中心となり助言した。



- (4) 図工・美術競技会、教育展に関する事前アンケートを実施し、昨年度までの実践で困ったことや改善したいことを抽出した。
- (5) 競技会・教育展の反省では、教育展終了後に、競技会の準備までに困ったこと、当日困ったこと、教育展の搬入や搬出で困ったことなどを挙げ、次年度につなげた。
- (6) 評価実践報告では、各自1部ずつレポートを作成し、小グループで学び合った。そのあと、各代表が発表し、評価方法や評価基準のあり方について全体で共有した。
- (7) 来年度の県教研での発表に向け、授業や評価について研究や検討を継続し、小委員会を中心に今後も発表の準備をしていく予定である。



5 今後の課題

指導上の悩みを抱えた教員にとって、実技指導の助言や意見交換は大いに参考となり、レベルアップにつながった。特に評価実践では、各学校で評価方法にばらつきがあるなどの課題が見つかった。それぞれの学年の発達段階に応じた指導方法や評価の基準を考え、小中9年間のつながりを考えて、今後の授業にこれらの活動が生かされるようにしていきたい。また、教材研究と評価実践を重ね、児童生徒の喜びを味わわせるための授業を目指し、教師の力量向上につなげていきたい。